

自己評価					学校関係者評価	
学校運営計画 (4月)				評価 (総合)		
学校運営方針	<p>【基本方針】 本校教育の根幹を成す「世のため、人のため」の精神のもと、社会の変化や生徒の実態に迅速に対応できる機動的な体制を確立し、開かれた学校づくりを推進する。</p> <p>【長期目標】 1 社会的な視座に立つ教育活動を展開することにより、世界の現実を直視し、自己の使命を果たそうとする高い志と国際的素養を持った生徒を育成する。 2 後世に優れた精神文化を継承していく使命と責任を自覚し、知性と感性が調和した人間力豊かで実践的行動力を身に付けた生徒を育成する。 3 内面的自覚を促し、節度ある生活の中で礼儀と倫理観を育てるとともに、主体的に行動し自らの責任を果たす生徒の育成を推進する。 4 学校行事や生徒会活動等における生徒の自治的活動をととして、創造性及び協働性並びにリーダーシップ・フォロワーシップ及び自浄力を育成する。 5 ICT教育を有効に活用した授業を展開することにより、思考力、判断力、表現力を更に伸ばさせる。 6 前期の区切りとしての「大運動会」と後期の区切り及び学年の総仕上げとしての「大文化祭」の二大学校行事を中心とした学校暦の充実を図る。 7 生徒の現状に即した諸支援を充実させ、「人間としての在り方・生き方」を考えさせる教育を推進する。 8 地域の小学校、進学塾と連携し、小学校及び小学生の保護者向けの広報活動を充実させるとともに、地域に対して本校の教育活動を理解していただく。</p>				<p>学校関係者評価</p> <p>自己評価は</p> <p>A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である</p>	
	昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標	
	<p>学校が安全・安心な場として、そして主体的な学びの場として十分機能し、人格形成や進路実現に十分な成果を得ることができた。これは継承されてきた本校独自の教育実践をととして、個性の伸長や人間的な成長が図られた成果である。 今年度も継続して、授業等で主体的・対話的で深い学びを充実発展させるとともに、次年度から始まる新教育課程の実現に向けた具体的方策を検討する。 また、学校行事や部活動等をととして人権感覚を身につけたリーダーの育成を図りつつ、遅しさとともに人の心や物を大切にす繊細な心を育む。 さらに、広報活動を充実させ、本校教育活動を小学生とその保護者を中心とした地域の方々理解していただく。</p>		<p>1 授業等の改善・充実</p> <p>(1) 校種間の接続(中高および高大の接続)を意識した授業を展開し、知識・技能の習得とその活用を内包する授業を展開する。 (2) 教育活動全体をととして、自他の個性を理解し、主体的に進路を選択できる能力・態度を育む教育を実践する。 (3) 二学期制の特色を生かした修猷館暦のもと、生徒の多様な資質・能力を伸ばす柔軟で効果的な教育の方法、システムの研究を推進する。 (4) 成年年齢引き下げに伴う教育を充実させる。</p>		<p>2 豊かな人間性と実践力の育成</p> <p>(1) 学校行事の意義について学校全体で共有することで、「世のため、人のため」という言葉に凝縮される本校の全人教育を充実させる。 (2) 命の大切さを認識させ、自尊感情・人権感覚等を主体的に獲得させるとともに、各種調査等から生徒の実態を把握し、教育活動を充実発展させる。 (3) 授業や特別活動等における交流、言語活動の充実をととして人間力を高め、グローバルリーダーに相応しい態度と実践力を育成する。</p>	
			<p>3 教師としての資質・能力の向上</p> <p>(1) 教師一人ひとりの言動が「隠れたカリキュラム」として修猷文化を醸成するという自覚を持ち、自ら進んで研究と修養に努め、教養を高める。 (2) 「語りの文化」を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業や評価等の研究・開発・蓄積に努め、共有化を図る。 (3) 健康の維持・増進を図り、幅広く知識と経験の習得に努め、専門性の向上を図る。</p>			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題		
教務部	教務課	1 修猷の不易と二学期制を活かし、生徒ひとりひとりの資質・能力を伸ばす。	(1) 各教育活動における「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた体制を構築する。 (2) 評価の観点を整理し、学習活動のあらたな評価法を検討する体制をつくる。			
		2 通常業務の精度向上と効率化、教育活動への還元を図る。	(1) 統合型校務支援システムを活用し、出席管理、指導要録作成などの業務精度向上を図る。 (2) 生徒状況報告書・生活時間調査の活用と学年・他分掌との連携により生徒把握と早期対応を行う。			
		3 グランドデザイン、修猷総合カリキュラムの更新を図る。	(1) グランドデザイン・総合カリキュラムを活用し、教育方針の共通理解を深める。 (2) 次期学習指導要領を見据えた新カリキュラムに対応した環境整備をおこなう。			
	庶務課	1 校内の教育環境の整備を充実させ、教育活動の充実と発展に寄与する。	(1) 校内備品の管理と整備を適切に行う。 (2) 生徒会庶務委員会活動をより活性化し、生徒が教室整備等に主体的に関わるようにする。			
		2 本校の儀式的行事の意義と伝統を踏まえた計画の作成や運営を行う。	(1) 関係各署と連携を密にとりながら、計画・準備・実施・片付けを行う。 (2) 新型コロナウイルス感染症の感染状況に適切かつ臨機応変に対応する。			
		3 P T Aや同窓会と連携し、教育活動の実態に応じた組織体制や活動を実現する。	(1) 両組織との連携を密にとりながら、関連行事の円滑な運営に協力する。 (2) P T Aの組織体制や活動について、時代や実態に即した形を模索し、改変する。			
生徒部	生徒支援課	1 自律して行動することの重要性を理解させ、主体的に行動し自己責任を果たす生徒を育成する。	(1) 全教職員が共通理解・認識のもと生徒の内面的自覚を促し、基本的生活習慣を確立させる。 (2) 規範意識育成(交通安全、情報モラル、防犯等)について年間で継続的な指導を行う。 (3) 防災教育・安全教育等により、安全意識と危機管理能力を向上させる。			
		2 生徒による自治的・協働的な活動をととして、豊かな人間性とリーダーシップを育成する。	(1) 学校行事の意義を職員間で共有し、学校全体で生徒の主体的な活動を支援する。 (2) 豊かな人間性と想像力、実践力を育み、誰もがリーダーシップを発揮できる環境づくりを行う。 (3) 命の大切さを認識させるとともに、自尊感情・人権感覚等を主体的に獲得させる。			
		3 生徒の現状に即した諸支援を充実させることにより、社会の変化や生徒の実態に対応できる体制の確立を図る。	(1) 長期欠席等に関しては、情報の共有、早期対応に努め、外部専門機関を積極的に活用する。 (2) いじめの未然防止・早期発見に努め、個別の事案については組織的・継続的に取り組む。 (3) 校外の研修会に積極的に参加し、情報を共有することで、指導効果を向上させる。			
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
生徒部	文化・体育課	1 部活動を通して、基本的な生活習慣を確立し、文武両道を心がけさせることで、「たくましく生きる力」を持った心身共に健康な生徒を育成する。	(1) 効率的に部活動の時間が確保できるよう各教科、学年との連携を密にする。 (2) 学校生活全般（学業、生活面等）の指導を、学年・分掌等連携して行う。 (3) 部長会議や自治会の開催を促し、学校全体を引っ張るスーパーリーダーを育成する。				
		2 感動ある、感動できる『大運動会』を目指す中で、生徒の自治的・協働的な活動とおし、リーダーシップや集団の実践力、スーパーリーダーを育成する。	(1) リーダーとの事前指導等を徹底し、生徒の主体的活動を細部にわたり支援していく。 (2) 安全性と効率性を考えた競技内容や組織へと改善する。 (3) 新たな企画を積極的に導入し、新しい文化を創造する。				
		3 『大文化祭』を当該学年の集大成と位置づけ、学校行事の運営力・自浄力の育成を図るとともに、新たな発想を取り入れた修猷文化の発信を目指す。	(1) 自治的活動を通して、リーダーシップを育成し自浄作用を促す。 (2) 折衝・企画検討会を充実させ、質の高い発表となるよう支援する。 (3) 新しい取り組みを積極的に取り入れ、新しい文化を創造する。				
進路部	進路支援課	1 進路行事を通して進路情報を発信し、高い志を醸成する。	(1) 進路の手引きや進路説明会等を通して、進路に対する意識を高め、高い志を養う。 (2) 大学入試改革についての情報収集を行い、新しい入試の形態に対応する。				
		2 テスト・模試の結果分析やデータの蓄積を行い、より良い進路支援へと繋げる。	(1) 実力テスト・修猷模試・外部模試を十分に活用し、進路目標を構築させる。 (2) 補習、課外のあり方を再検討し、新カリキュラムの中での課外運用を確立する。				
		3 他の部や学年と密接に連携をとりキャリア教育の推進を図る。	(1) オープンキャンパスなどを積極的に案内・活用し、主体的キャリアデザインを意識させるよう支援する。 (2) 卒業生体験発表会、東大講演会等の講演会を催し、進路意識の向上に繋げる。				
進路部	広報課	1 本校の魅力を、第六学区小中学校の児童・生徒・保護者はもとより全国に発信し、本校の社会的認知度を高める。	(1) 学校案内パンフレットなどを通じて、生徒保護者のニーズに応える情報を提供する。 (2) HPにおける生徒主体の発信情報を充実させ、適宜更新してより魅力的な広報資料とする。				
		2 小学生保護者説明会、第6学区公立高校説明会、修猷フェストの企画を更に充実させる。	(1) 本校の教育理念、教育体制および生徒の姿を来場者に伝え、本校の魅力を発信する。 (2) 生徒部および生徒会執行部との連携を深め、より良い協力体制を確立する。				
		3 地域や小・中学校、および進学塾との直接的な連携を重視し、相互の信頼関係の構築に努める。	(1) 学区内の中学校および進学塾との連携を深め、資料収集と情報交換を行う。 (2) 中学校での出前授業や授業参観等の機会を広報の好機として十分に利用する。				
教養部	研究支援課	1 「確かな学力」を育成する授業のための教科研修を実施する。	(1) 授業の充実に資する研鑽の機会として、研究授業、相互授業参観等を活用する。 (2) 「年間聴講制度」の円滑な運営と成果の共有に努める。				
		2 教師の資質・能力の向上に繋がる職員研修の企画運営を推進する。	(1) 生徒の実態や本校の現状を踏まえた職員研修、人権研修を企画し、実施する。 (2) 研究紀要や校誌等の刊行について、編集過程を含めた充実に努め、活用を推進する。				
		3 教育研究活動の充実を図る。	(1) 本校の教育活動を俯瞰するための教育研究・調査を、継続的に実施する。 (2) 各教科・各分掌等による教育研究を支援するという分掌機能を充実させる。				
		4 総合的な探究の時間のさらなる充実に向け、各学年・各分掌との連携による運営支援を行う。	(1) 自主的・協働的な活動を通じた自己教育力・相互教育力育成の機会とする。 (2) 社会状況を踏まえ、出前授業などにおける外部連携の在り方の再構築を図る。				
教養部	図書課	1 読書習慣を通じ感性や論理的思考力・表現力等豊かな人間性を培う。	(1) 朝読書を軸とする充実した読書活動を、学校全体の取り組みとして推進する。 (2) 図書館ORや各種「推薦本」コーナー等の取組では、学年・他分掌と連携する。				
		2 生徒図書委員の自主的活動を支援し、図書館の活動の活性化を図る。	(1) 生徒図書委員による日々の業務の遂行、及び他校との交流活動を支援する。 (2) 朝読書・菁莪祭・図書館報・各種公報を充実させ、生徒の知的探究心を育てる。				
		3 情報・メディアセンターとしての図書館機能を充実させ、メディアリテラシーの向上に資する。	(1) 各教科と連携し授業関連の情報・図書の提供を充実させる。 (2) 図書館のマルチメディア化と学校発行文書の電子化・図書館での保存を推進する。 (3) 菁莪記念館(1F・3F)の視聴覚設備や修猷資料館について適切な管理運営を行う。				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

評価項目以外のものに関する意見